

# 委員会の動き

建設委員会  
経済常任委員

議会には3つの常任委員会のほか、議会運営委員会、広報特別委員会が設置されています。今回は、経済建設常任委員会の行政視察調査の内容を紹介します。

## 「道の駅」の整備事業 先進市町を行政視察

平成30年5月14日から16日まで、本町の重点課題である「道の駅」整備事業を進めるにあたり、先進的な取り組みを行っている4市町を視察し、施設整備状況及び管理運営等について調査した。

最初に、人口約2800人に對し、来場者28万人という黒松内町の道の駅くろまつない「トワウエール・ドゥー」を視察した。オリジナル焼きたてパンやピザ、ベーカリーレストランが自慢。窓の外にはパークゴルフ場が広がっていた。

次に西洋式農法発祥の地、七飯町「道の駅なないろ・ななえ」を視察した。女性設計士が手掛けたことで、トイレ、おむつ交換台や授乳室等のほか、女性用パウダールームには、手荷物を置く棚やフックが設置され、配慮が行き届いていた。

次に「北欧の風 道の駅とうべつ」を視察した。豊かな田園風景と恵まれた自然環境の中、姉妹都市のスウェーデン王国レクサンド市を思わせる景観に配慮した外観で、車いす利用者が多く訪れる道の駅であった。最後は「サーモンパーク千歳」を視察した。民間による指定管理者制度でリニューアルされた道の駅である。子どもが遊べる工夫が施された親子向けの施設で、子育て世代の利用が多いのが特徴である。

### テーマとコンセプト 明確な位置づけを

今回視察した4か所の道の駅は、それぞれが地域性を生かした特色ある施設であった。基幹産業を生かした特産品の販売やメディアを活用した情報発信で、P



道の駅なないろ・ななえ（七飯町）

Rや地元産業の発展につなげていた。地元住民に日常的に利用してもらえよう、常に分析と研究を重ねており、人に愛され利用される道の駅の整備には終わりがないと痛感した。より有効な施設整備と管理運営を行う上で、テーマやコンセプトを明確に位置付けることが最も重要であり、設計段階から女性目線で細やかな配慮があることも、利用客の増加につながっている。特にトイレ環境の充実も重要なポイントである。加えてキッズスペースや授乳室等の整備は、家族連れの利用を促す効果がある。また、そこでしか手に入らない一品を作ることは、集客効果を生むため必ず取り入れるべきものと考えられる。

視察調査で得たことを、道の駅整備計画に十分活かしていきたい。



サーモンパーク千歳（千歳市）